

切ちゃんが、
消息を絶って数日後

ほろほろに犯された
切ちゃんを映した
ビデオレターが私個人に
届いた…そして私は…

『ようこそ光明結社へ』

『二人で来たということとは
暁切歌の身代わりになると
いうことでよいのだね?』

『…そうよ、だから切ちゃんを選んて』

『それは君の誠意次第だ』

『…っちよつとどい触って…っ』

『抵抗しても
構わんが本物の聖遺物は
我々が預かっている
君はただの非力な
小娘なのだよ?』

『…っこのゲス…』

『下の方も
まだ毛も生えてない
ツルツルの果実』

『…やだ…私の
アソコ…見られて…』

『色も申し分ない』

『ふむ、しっかり処女膜もある』

『では、頂こうかね。
じっくり押さえて』

『…ぎゃっ…いたい…っ!!』

『やだ…っ!!』

『はっはっは!!
こんなエロい
恰好してる時点で、
犯してくださいと
言ってるような
もんだらう!』

『違…っ!!』

『これはっ…!!』

『君も「暁切歌」同様、
我々の女にしてやる!!』

『押さえつける!』

「フンっ！これは…っ！」

「すぐにッ！出て…ッ
しまいそうだッ!!」

「ダメ！中はッ！
膣内だけはッ!!」

「うおおおッ!!」

孕めッ!!

「今更何を
言ってるいる！
たっぷりと
注ぎ込んでやる！」

「やだ！やめてええッ!!」

「はっはっは！
たった1回でこれとは
所詮はメスだった
という事ですかな」はっ

「ですなあ、我々を苦しめてきた
正義のヒロイン様とも
あろう者がなさけない」

「さあ、我々のザーメンの
味を存分にその子袋に
教え込ませてあげましょう」

「赤ちゃん…できちゃう…」

「嘘…中に…子宮に…
汚いのが…入ってきて…」
「熱い…ッ！
アソコがおかしく
なっちゃう!!」

『さすがにやりすぎたか?』

『いやいや、こんなものまだ序の口
それに壊れたところで、
どうということはありません』

『ふむ……こま犯されて、
まだ人質を助けられると
思っているとは……愚かな』

『まあ、どうせ返す
つもりなどなかったが……
後ほど感動の再会と
行こうではないか』

『下腹が我々の
精液で妊娠して、
マンコから
逆流しているのを
見るのは……いつ見てもよい』

『……切……ちゃん……
今……たす……けに……』

はー

はー

うー

はー

うー

『それでは、誰が二人を
孕ませられるか
競争しましょう』

『再会した時どちらかが
孕んでいれば
逃げる気力もなくなる
でしょうからな』

『それは実にいい案だ
早速始めるとしよう』

『我々の子種で孕み、実った
体で再会し、絶望した
二人をさらに目の前で摘み取る』

『クククククク』

『はっはっは』



あれから何日
経ったんだろう…

私の体は、もはや少女と
呼べるものでは
なくなっていた

ほくら、約束通り、
友人との再会だよ

散々犯された
私のアソコは醜く開ききって
子宮口まで丸見え
になってしまった

大きくなったお腹の中には
誰が親なのかわからない
子もいて…

黒ずんだ乳首からは、母乳が
出るようになってきた…

目の前に…切ちゃんがいる…

二人とも仲良く
懐妊で来たねえ
ヒビ…ツ!!

私と同じように孕まされて
アンチリンカー入りの媚薬を
投与され下腹に怪しい
紋章が輝いてる…

良かったねえ、調君。
これからは二人一緒に
犯してあげるよ…
ずっとねえ…
ヒビ…ツ!!

いつ…しよ…
切…ちゃん…
と…ず…つ…と…

再会に安堵した私は
これから始まる凌辱の
ことなど忘れ、意識を手放した

ヒビ…ツ!!

ア…ア…

…!!

…!!

…!!

…!!

…!!

…!!